

令和 6 年度 第 1 回 帯広圏デジタル化推進協議会 議事概要

日時：令和 7 年 2 月 14 日（金） 11 時 00 分～

場所：帯広市役所 4 階 会議室

1 帯広圏デジタル化推進構想の取り組みについて

事務局（帯広市 ICT 推進課）より、配布資料の説明を行い、次のとおり意見交換を行った。

2 帯広圏におけるデジタル化推進に向けた意見交換

（1）推進体制について

資料の「推進体制」について了解を得た。

（2）議題 1. ウェルビーイングエリア&ローカルハブの取り組みについて

<委員>

- ・「難しいこと」からではなく、「出来ること」から、しっかり進めるということが重要。
- ・各自治体が特長を持ちながら進め、良い結果は、他 3 自治体が続く形が理想。
- ・今回の資料で、1 市 3 町の進捗状況が記載されている点は重要。
- ・「圏域」としての取り組みを PR していく必要がある。
- ・「ローカルハブ」分野でのスマート農業の成果物は、資産として各自治体へ共有していくことが重要。

<委員>

- ・アドバイザーボードでの助言や意見が、的確に課題を捉えていると感じる。
- ・DX 推進に向け R7 年度は一定の予算を確保したが、今後、人件費の上昇などが続くと、事業に使える資金が減少するため、国からの財源支援は必要。
- ・初期段階での行政の役割は重要であり、事業の取り組み調整等は行政が率先して行うなど、一定の役割を果たすべき。
- ・行政の負担は大きいですが、進めなければ物事が進展しないと感じている。GX や DX も行政が主導し、住民に見える形で進めていくことが必要。

<委員>

- ・国の財源措置は必要であり、民間事業者も同様に課題を抱えているため、地域全体での取り組みが必要。
- ・必要性は認めながらも緊急性の低い案件は、財源がないと後回しにされがちなため、気運を盛り上げ、優先度を考慮しながら進める必要がある。

<委員>

- ・「帯広圏」の取り組みにより、地域の進化や改善を実感している。競争よりも協力を重視することが重要。
- ・今回の資料は、次のステップへの「基礎資料」。具体例も明示されており、必要な分野が明確になっている。
- ・関係者に情報共有がされ、各市町の庁舎内でこの取り組みを広めていくため、地元報道機関と協力しながら、普段の活動を広報することも重要。
- ・ウェルビーイングの向上を目指し、「デジタル化、脱炭素、カーボンニュートラル」の取り組みを進めるべき。
- ・誰もやらない新しいことを積極的に試みるのが重要。新しい技術や方法を導入することで、経済効果を生む可能性がある。

<座長>

- ・広域でデジタル分野の取り組みを進めることは、もともとハードルが高い認識だが、初年度の取り組みとしては、非常に順調に進んでいると評価。
- ・「帯広圏」という圏域単位で事業を進めていく一方で、住民にも、本取り組みの周知をして認識してもらうことが重要。
- ・現在の状況を把握し、効果的な進め方や進捗を共有・確認しながら、目標達成度を評価していく必要がある。
- ・農業のデジタル化を通じて、企業や産業にも波及させていくことが重要。

(3) 議題2：帯広圏デジタル化推進協議会設置要綱改定について

資料の「設置要綱改定」について、承認を得た。

3 その他

- 特に意見等無く会議は終了。

以上